

令和元年6月16日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26284083

研究課題名(和文) 産学ELF(共通語としての英語)使用実態調査とグローバル人材育成英語教育への提言

研究課題名(英文) An investigation into the use of ELF in business and academic settings and its implications for English education of future global citizens

研究代表者

村田 久美子(MURATA, KUMIKO)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：10229990

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の主な成果はELF概念理解の深化、高等教育、特に英語を媒介とした授業(EMI)でのELF使用実態の解明。EMI環境下、多様な言語文化背景の学生がELFを用い如何にコミュニケーションを図っているかを明らかにする-と同時に、学生のELFコミュニケーションへの意識及び英語力の捉え方の変化を質的分析で詳細に描写、加えてビジネス現場の多様なELF使用の実態を明らかにし、また、アジアでのビジネスインタビュー調査では多言語多文化背景の中でのELFコミュニケーションの多層性、多様性を浮き彫りにした。最後に、これらに基づいたELFに対する意識変革と教育への示唆と提言も成果として挙げられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国際共通語としての英語(ELF)使用は国内外で急激に増加している。本研究ではELF使用の実態調査をビジネス及び高等教育双方の現場でアンケート調査、インタビュー、実際のやり取りの録音という形を組み合わせ実施、会話分析、談話分析的手法及び民俗誌学的な視点も取り入れつつ、ディスコース、プラグマティックレベルでのコミュニケーション上の問題点に注目しながら詳細な質的分析を行い、実際のELF使用場面で何が起きているかを調査、ELFコミュニケーションで求められている英語力とは何かを解明し、グローバル人材育成の為の英語教育に積極的に貢献しようと意図した点で学術的にも社会的にも意義深い。

研究成果の概要(英文)： The results of this research are threefold: deepening the understanding of ELF, explicating the reality of ELF use and attitudes towards ELF in both business and academic settings, and considering the implications for language pedagogy for enhancing English education of future global citizens. The ELF use in academic settings is explored in EMI (English-medium instruction) settings, where it is found students from various linguacultural backgrounds communicate effectively, deploying multilingual resources in their communication. The research has also explicated changes and differences in students' attitudes towards ELF communication. The investigation into business settings has revealed business people are keenly aware of the diversity of ELF use and communication, which is made even clearer through interviews of business people in Asian business settings, where the use of ELF, the local language and the corporate language is intertwined in a complex and multilayered manner.

研究分野：応用言語学、共通語としての英語(ELF)、ディスコース・会話分析、語用論、英語教育

キーワード：応用言語学 ELF 英語教育 ESP 社会言語学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

過去 20 年程で、共通語としての英語 (**English as a Lingua Franca – ELF**) 使用は国内外で急激に増加している。しかし、この **ELF** 使用の現状を、日本人 **ELF** 使用者に焦点をあて、実際にその使用の現場で調査をしている研究は研究開始の時点でまだほとんどなかった。本研究では日本人の **ELF** コミュニケーションの実態調査をビジネス及び高等教育の現場でアンケート調査、インタビュー、実際のやり取りの録音という形を必要に応じ組み合わせて行い、会話分析、談話分析的手法及び民俗誌学的な視点も取り入れつつ、ディスコース、プラグマティックレベルでのコミュニケーション上の問題点に注目しながら詳細な質的分析を行い、実際の **ELF** 使用場面で何が起きているかを明らかにし、**ELF** コミュニケーションで求められている英語力とは何かを解明、英語教育に積極的に貢献しようと思図したもので、その意義は深く、この種の研究調査が強く望まれる状況下であった。

ELF コミュニケーション主体者は主として今まで英語の非母語話者とされていた人々で、例えば、日本人とインドネシア、ベトナム、韓国、中国、ブラジル、ナイジェリア人等が英語を共通語として商談や研究を行う例が挙げられる。このようなコミュニケーションは過去十数年で格段に増え、今後益々増加すると予想される。**ELF** 研究は特にヨーロッパを中心に過去 20 年ほどで目覚ましい発展を遂げており(**Jenkins 2000, 2007, 2014, J, Mauranen 2006, 2012, Seidlhofer 2001, 2003, 2004, 2011, Seidlhofer & Widdowson 2009, Widdowson 2012, 2013**)、アジアでも過去 10 年程、目覚ましい展開をみせている(**Kaur 2009, 2011, Kirkpatrick 2010, Murata & Jenkins (eds.) 2009**)。しかし、日本人 **ELF** 使用者の、特にアジア地域での使用実態調査、及び、英語及び **ELF** 使用への姿勢、受け止め方の研究調査はまだ限られており、特に文科省が、将来のグローバル人材育成を高く謳っている状況で(**MEXT 2011, 2014**)、グローバル人材が使用することが多いであろう共通語としての英語(**ELF**)の使用実態調査の必要性が望まれる状況下にあった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、(1)日本人による共通語としての英語(**English as a Lingua Franca-ELF**) コミュニケーションの実態を把握、(2)日本人 **ELF** 使用者に求められるコミュニケーション能力は何であるかについての具体的、且つ、現実的な **ELF** コミュニケーション能力の解明、(3)これを基に実際に求められる **ELF** コミュニケーション能力育成の為の具体的な英語教育への提案を行うことであり、主として以下の 4 点を明らかにすることを具体的な目標として掲げた。

- (1)**ELF** に関する既存研究実態把握及び理解の深化、同時に問題点の洗い出しと検討
- (2)**ELF** コミュニケーションの更なる実態録音調査(ビジネス及びアカデミックコンテクスト録音調査及び事後インタビュー)と質的分析、これに基づいた具体的且つ現実的な **ELF** コミュニケーション能力の実態解明
- (3)**ELF** コミュニケーションの意識調査(アンケート及びインタビュー調査 - 学生、教員、ビジネスパーソン)と詳細分析。特にインタビューに関しては長期的視点も取り入れ、**ELF** による授業、コミュニケーションを体験した学生の入学時と卒業時での **ELF** に対する意識変化追跡調査、**ELF** コミュニケーション能力の掌握と上記(2)の結果も踏まえて考慮した意識改革の方法
- (4)上記(1)-(3)の結果を有機的に結びつけ、今後必要とされる具体的且つ現実的 **ELF** コミュニケーション能力の策定とこの **ELF** 使用の現実を踏まえた能力育成の為の英語教育及び英語教育政策・方針への具体的且つ実現可能な提案

3. 研究方法

本研究では具体的に次の方法を用いてデータの収集及び、調査・分析を実施した。

- (1) **ELF** の既存研究、あるいは現在進められている研究の詳細な調査・検討と国内外の研究者との意見交換、及びワークショップ開催による研究の深化(主として **H26-29** 年度)
- (2) 日本人の **ELF** コミュニケーション現場での実態録音調査(ビジネス及び大学教育での **ELF** 使用場面で録音と事後インタビュー)(主として **H26-29** 年度及び **H30** 年度)
- (3) **ELF** コミュニケーションとこれを到達目標とすることへの意識調査(英語教員、学生、ビジネスパーソンへのアンケート調査(**H27-29** 年度)及びインタビュー(主として **H26** 及び **H29-30**))
- (4)上記 (1)-(3)の結果を有機的且つ総合的に踏まえての具体的且つ現実的 **ELF** コミュニケーション能力の策定、及び、具体的な英語教育への提案、及び国際シンポジウム開催(**H30**)

4. 研究成果

(1)研究の主な成果

本研究の主な成果は **ELF** 概念理解の深化 1)高等教育、特に英語を媒介とした授業

(English-medium Instruction - EMI)での ELF 使用実態の解明及び 2)EMI や英語に対する学生の姿勢及びビジネスピープルの ELF 使用の実態と英語及び英語教育への態度 これに基づいた ELF に対する意識変革と教育への示唆の 3 点が挙げられる。以下に順を追って、説明する。

ELF 概念理解の深化

理解の深化に関しては主として、1)ワークショップの開催、これに基づく 2)Working Papers の発刊によるところが大きい。特に国際ワークショップは前 ELF 関連科研から毎年開催を開始し、H26-30 年度には合計 5 回を開催、この間、毎年国際ワークショップ参加の研究者を中心に、更に ELF 概念理解の深化及び研究発展を目指して、H28 年 4 月に大学英語教育学会(JACET)の研究グループ(Special Interest Group - SIG)として ELF SIG が設立されるまでに至った。以下に、各回の詳細を記す。

1) ワークショップの開催

H26 年度より 30 年度まで、毎年国際ワークショップを開催(この他に毎年数回一般ワークショップも開催) 毎年のテーマに沿って、ELF の分野で国際的に活躍する研究者を基調講演あるいはパネル討論者として招聘すると同時に、指定討論者としても活躍して頂いた。基調講演、パネリスト等として招聘した研究者は H26 年度はウィーン大のウイドウソン、サイドルホフファー両教授及びテルアビブ大のショハミ教授、パネリストの一人として中国の Ying Wang 博士(成果の詳細については、Murata(ed.)2015,2016 等参照) H27 年度はロンドン大コゴ博士、香港教育大ワン博士、ウィーン大ピッツェル博士、H28 年度はヘルシンキ大モラネン教授、ストックホルム大クティバ教授、H29 年度はメルボルン大マクナマラ教授、ロンドン大ターナー名誉教授、本研究の最終年度であった H30 年度はウィーン大学ウイドウソン、サイドルホフファー両教授及びパラナ連邦大ジオルダオ教授を基調講演者として、マラヤ大ハシム、ブリティッシュ・コロンビア大久保田、湖南大パーク、北京外国語大ウエン各教授をパネリストとして招聘した。これに加え、H27-29 年には第 1-3 回 EMI-ELF ワークショップも毎年開催、EMI を ELF の視点から研究しているウィーン大 Smit 博士、クィーンズ大のカークパトリック教授、ストックホルム大ビョークマン准教授を各年に招聘し(Waseda Working Papers in ELF, Vols,4-8 参照) 理解を深めた。

2)Working Papers の刊行とそれに関連した出版物

ELF 概念の理解の深化は上述した一般、及び国際ワークショップの発表論文を中心に編集された *Waseda Working Papers in ELF* に負うところも大きい。これは H24 年より毎年 1 回刊行開始、H26-H30 年度で更に 5 巻を発行(3-7 巻)、現在、H30 年度の発表論文を中心に最終巻、第 8 巻を編集途中で、R1 年 6 月末刊行予定で準備中である。第 6 巻では若手 ELF 研究者であり、分担者である小中原が、また、7 巻ではこれに加え同じ若手 ELF 研究者の石川が共同編集者として加わり、ELF 分野での若手研究者の研究参加、及び編集経験を積むことも促進されている。第 2 巻以降は全ての投稿論文は英文となっており、日本における ELF 研究の実態を知り、ELF 自体への理解を深める意味でも、海外の研究者からも参考にして頂く機会が増加しており、また、ELF 関連文献はまだ比較的限られている為、国内外の研究者からも貴重な参考文献として言及、引用されることが多くなっている。国際出版面では、日本の高等教育及びビジネスの現場での ELF の実態に関する村田の編著書がルートリッジ社から 2015 年 7 月(Murata 2016)に、また EMI を ELF の視点から考察した村田の編著書が同じルートリッジ社から 2018 年 7 月(Murata 2019)に刊行された。これら、一連の出版物も ELF 概念の理解の深化に大きく貢献している。

ELF 使用実態の解明

1) 高等教育、特に EMI 現場での ELF 使用実態の解明

ELF コミュニケーション現場での実態録音調査に関しては、高等教育現場では H26-28 年度では毎年学生インタビューを実施、また EMI の授業録画も H26-29 年に実施、英語を媒介とする授業(EMI)という環境の中で、いろいろな教育・言語・文化背景を持つ学生たちが、いかに ELF を用いながら協力的にコミュニケーションを成し遂げているかを明らかにすると同時に、この過程での学生たちのアイデンティティ、ELF によるコミュニケーションへの意識、ひいては英語力の捉え方の変化を質的分析で詳細に描写することに成功した (Iino & Murata 2016, Murata (ed.) 2016, 2019, Murata & Iino 2018, Murata, Iino & Konakahara 2019 参照)

2) ビジネス現場での ELF 使用の実態解明

ビジネス現場での新しいデータ収集は H29-30 年度に、バンコク及びシンガポールを拠点に活躍する日系企業等に勤務するビジネスピープルのインタビューを実施、現地語や多言語環境の中での ELF 使用の実態を調査、この結果は現地日系企業内、及びその他の多国籍企業、国際機関内での多言語多文化背景の参加者の中での ELF コミュニケーションの多層性、多様性を浮き彫りにした。(Murata, Iino, Konakahara & Terauchi 2018 参照)

3) EMI や英語に対する学生の姿勢及びビジネスピープルの ELF 使用の実態と英語及び英語教育への姿勢

上記 1), 2) の高等教育及びビジネス現場での録画、インタビュー調査に加え、H27-29 年度の 3 年間は EMI や英語に対する学生の意見を問う学生へのアンケート実施 (EMI プログラム、EMI コースの 2 種類の EMI に参加する学生に対応) また H28-29 年には、ビジネスピープルの ELF 使用の実態と英語及び英語教育への意見を問うためのアンケート調査を実施、この結果は、その後のインタビュー実施とも結びつけ、多視点から分析された (Konakahara, Murata & Iino 2016, 2019, 村田他 2017, 2018, 2019 等参照)。

4) 結果の発表と周知

上記データ分析結果は、H26 年度は第 20 回社会言語学シンポジウム (SS20)、第 7 回 ELF 国際学会、米国応用言語学会 (AAAL) にて飯野・村田、村田・飯野で共同発表、また H27 年度は第 8 回 ELF 国際学会招待シンポジウムで村田・飯野が発表、言語・教育・多様性会議 (LED) でも村田・飯野で共同発表、H28 年度は第 9 回 ELF 国際学会、JACET 国際大会で村田・飯野・小中原が共同発表、早稲田 ELF 国際ワークショップでは小中原・村田・飯野が発表した。H29 年度は、第 10 回 ELF 記念国際大会で村田・飯野・小中原が、これに加え村田は JACET サマーセミナーで特別講義を、同じく JACET 国際大会でも海外共同研究者のウィドウソン、サイドルホファー両氏と共にパネルを組み、ELF 研究の教育的意義について討議した (Murata 2019, Seidlhofer 2018, Widdowson 2019 参照)。同年の早稲田 ELF 国際ワークショップでも小中原・村田・飯野で発表した。H30 年は、第 11 回 ELF 国際大会で村田・飯野・小中原・寺内で発表すると同時に、第 8 回早稲田 ELF 国際ワークショップパネルでも、代表者、分担者、連携研究者がこれまでの総まとめの意味で、パネル発表をした。これらの国内外関連学会での研究成果発表は、ELF の研究の可能性、教育的意義などの考察に大きく寄与し、グローバル時代を踏まえた英語教育及び ELF 使用に関する教育・行政面での認識及び実践と、ビジネス現場での ELF 使用の現実との乖離をも明らかにした。

上記研究結果に基づいた ELF に対する意識変革と教育への示唆

上述の研究結果に基づいた意識改革は研究者レベルでは、ELF ワークショップへの参加者の増加、Working Papers やその他の ELF 関係出版物読書による理解の深化によるところが大である。ELF の研究を希望する若手研究者も増加傾向にあり、また研究者レベルのみならず、学生の ELF 使用に関する意識も確実に変化しており、加えて、研究代表者は ELF とその関連分野の World Englishes (WE) を授業の中で EMI の一環として科目として取り上げ、教え、この結果、受講した学部生レベルでの ELF への理解、意識も高まりつつあることが明らかになっている (Murata, forthcoming)。この他にも ELF 研究者の中で、授業の一環として ELF を教えながら、受講者の意識も高めるといった試みが増えており (Konakahara 2018)、ELF 使用への意識改革と教育への示唆、実践が着実に進んでいる。

(2) 国内外における位置づけとインパクト

本科研の最終年度、H30 年までに合計 8 回開催した国際ワークショップは ELF 研究に興味がある研究者や学生等に広く公開され、多くの参加者があり質疑応答も活発で、ELF と ELF 研究への理解を深めるよい機会となり、ELF 研究の裾野の広がりが実感できている。また、研究成果の海外への発信においても、海外で開催される ELF 国際学会や関連学会で研究結果を発表する研究分担者も含む若手研究者も増加し、この分野で定評のある国際学術誌 *Journal of English as a Lingua Franca (JELF)* に論文掲載がされた国内若手研究者の数も増加し、確実にこの分野の興味、理解の広がり、研究の発展が観察できる。また、*Waseda Working Papers in ELF* は既に本科研期間中も新たに 5 巻が刊行され (最終巻、8 巻は R1 年 6 月末刊行予定)、国内外の ELF 研究者の貴重な参考文献となっている。またこの他に主として、*Working Papers*, 1-2 巻と、3-4 巻を中心に編集した本が国際的な出版社ラウトリッジ社から H27 年 7 月と H30 年 7 月に刊行された (Murata (ed.) 2016, 2019)。よって、本科研の研究成果は国内外での多くの研究者の言及するところとなり、国際的にもインパクトのある結果を出しているといえる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 25 件中以下、13 件提示。紙面の都合により、その他は以下のサイトにアップロードした pdf を参照。 <https://sites.google.com/site/welfrg/>)

Murata, K. (2019) The realities of the use of English in the globalised world and the teaching of English: a discrepancy? *JACET Journal*, Vol.63: 7-26.

村田久美子, 小中原麻友, 飯野公一, & 豊島 昇. (2019). EMI (英語を媒介とする授業) 参加に伴う学生の意識変化と「共通語としての英語」使用に対するビジネスピープルの世代間の意識差の調査、及び英語教育への示唆と提

- 言. 『早田教育評論』, 33(1), 19-38. 査読有
- 村田久美子, 小中原麻友, 飯野公一, & 豊島 昇. (2018). EMI (英語を媒介とする授業) とビジネス現場における「共通語としての英語」への意識調査、および英語教育への提言. 『早田教育評論』, 32(1), 55-75. 査読有
- Yano, Y. (2018). 「Quo vadis, Lingua Britannica? 英語よ、どこへ行くのか? : 国際共通語となった英語の今後」『地球システム・倫理学会会報』13号, 49-57. (査読有)
- Konakahara, M. (2017). Interactional management of face-threatening acts in casual ELF conversation: an analysis of third-party complaint sequences. *Journal of English as a Lingua Franca*, 6(2): 313-343.
- Konakahara, M., Murata, K., and Iino, M. (2017) From Academic to Business Settings: Changes of Attitudes towards and Opinions about ELF. in *Waseda Working Papers in ELF*. Vol. 6., pp. 129-147.)
- 村田久美子, 飯野公一 & 小中原麻友. (2017). EMI (英語を媒介とする授業) における「共通語としての英語」の使用の現状把握と意識調査、および英語教育への提言. 『早田教育評論』, 31(1), 21-38. 査読有
- Nozawa, Y. (2017). Pre-empting and Repairing Non-Understanding in Medical Consultations: Interaction between Medical Students and Simulated Patients in English as a Lingua Franca. *Waseda Working Papers in ELF (English as a Lingua Franca)*, 6: 148-162. Tokyo: Waseda ELF Research Group, Waseda University.
- Terauchi, H. (2017). ESP Education in Japanese Universities: Past, Present and Future Prospects. *Proceedings of 2017 ETA-ROC 26th International Symposium on English Teaching and Book Fair (November 11-12, 2017) at Chien Tan Overseas Youth Activity Center, Taipei, Taiwan*, 63-73. 査読有.
- Konakahara, M. (2016). A conversation analytic approach to ELF communication: Incorporating embodied action in the analysis of interactional achievement. *Waseda Working Papers in English as a Lingua Franca*, 5: 78-96.
- Konakahara, M. (2015). An analysis overlapping questions in casual ELF conversation: Cooperative or competitive contribution. *Journal of Pragmatics*, 84: 37-53.
- Terauchi, H., & Maswana, S. (2015) Essential English for Business Meetings: Respondents from 909 Businesspersons' Scaled Survey. *WASEDA Working Papers in ELF (English as a Lingua Franca)*, 4, 89-103. 査読有.
- Tsuchiya, K. (2015) Comparing articles of ELF-based and native-norm-based journals using a small-scale corpus. *Waseda Working Papers in ELF (English as a Lingua Franca)* 4, 149-167. (査読有)

【学会発表】(計 85 件、紙面の都合により、学会発表詳細は以下のサイトにアップロードした pdf を参照。 <https://sites.google.com/site/welfrg/>)

【図書】(計 34 件中以下、19 件提示。紙面の都合により、その他は以下のサイトにアップロードした pdf を参照。 <https://sites.google.com/site/welfrg/>)

- Iino, M. (2019). EMI (English-medium instruction) in Japanese higher education: A paradoxical space for global and local sociolinguistic habitats. In Murata, K. (ed.), pp. 78-95.
- Konakahara, M., K. Murata and M. Iino. (2019). 'English'-medium instruction in a Japanese university: exploring students' and lecturers' voices from an ELF perspective. In K. Murata (ed.), 157-175.
- Murata, K. (ed.) (2019) *English-Medium Instruction from an English as a Lingua Franca Perspective: Exploring the higher education context*. London: Routledge.
- Murata, K., Iino, M., & Konakahara, M. (2019). Realities of EMI practices among multilingual students in a Japanese university. In J. Jenkins & A. Mauranen (Eds.), *Linguistic diversity in international universities*. Oxon: Routledge, 149-171.
- Murata, K & M. Iino (2018) EMI in higher education: An ELF perspective. In Jenkins, J., W. Baker, and M. Dewey. (eds.). *The Routledge Handbook of English as a Lingua Franca*. Oxon: Routledge, 400-412.
- Murata, K., T. Ishikawa & M. Konakahara (eds.) (2018) *Waseda Working Papers in ELF (English as a Lingua Franca)*, Vol. 7, Tokyo: Waseda ELF Research Group, Waseda University
- Yano, Y. (2018). Role of Users of English as an International Language to Regularize the Language. In Yiu-nam Leung et al., eds. *Reconceptualizing English Language Teaching and Learning in the 21st Century: the Festschrift in honor of late Professor Kai-chong Cheung*. Taipei: English Teachers' Association-Republic of China, 64-73.
- Yano, Y. (2018). Communication in English as a Lingua Franca: The Kachruvian Model of Three Circles Reconsidered. In E-L. Low and A. Pakir (eds.) *World Englishes: Re-thinking Paradigms*. London: Routledge, 96-113.
- Konakahara, M., K. Murata and M. Iino. (2017). From Academic to Business Settings: Changes of Attitudes towards and Opinions about ELF. *Waseda Working Papers in ELF (English as a Lingua Franca)*, Vol. 6, pp. 129-147, Tokyo: Waseda ELF Research Group.
- Murata, K. & M. Konakahara (eds.) (2017) *Waseda Working Papers in ELF (English as a Lingua Franca)*, Vol. 6, Tokyo: Waseda ELF Research Group, Waseda University
- Terauchi, H., & Maswana, S. (2017). MAP Grammar and ESP: Beyond the Classroom. In A. Tajino (Ed.), *A New Approach to English Pedagogical Grammar: The Order of Meanings* (pp. 65-72). London: Routledge.
- Iino, M. and Murata, K. (2016) Dynamics of ELF communication in and English-medium academic context in Japan. In K. Murata (ed.), pp. 111-131.
- Konakahara, M. (2016). The use of unmitigated disagreement in ELF casual conversation: Ensuring mutual understanding by providing correct information. In K. Murata (ed.), pp. 70-89.
- Murata, K. (ed.) (2016) *Exploring ELF in Japanese Academic and Business Contexts: Conceptualization, research and pedagogic implications*. London: Routledge.
- Murata, K. (ed.) (2014-2016) *Waseda Working Papers in ELF (English as a Lingua Franca)*, Vols. 3-5, Tokyo: Waseda ELF Research Group, Waseda University
- Murata, K. (2016) ELF research – Its impact on language education in Japan and East Asia. In M-L. Pitzl & R. Osimk-Teasdale (eds.), *English as a Lingua Franca: Perspectives and Prospects*. Contributions in Honour of Barbara Seidlhofer. Berlin: De Gruyter, 77-86.

Terauchi, H., & Araki, T. (2016). English Language Skills that Companies Need: Responses from a Large-scale Survey. In K. Murata (Ed.), pp. 180-193.
Tsuchiya, K. (2016). Analyzing Interruption Sequences in ELF Discussions. In K. Murata (Ed.), 90-110.
Yano, Y. (2016). The Unmarking Trend in Language Changes and its Implications for English as a lingua franca. In
In K. Murata (ed.), 47-56.

【その他】

ホームページ等

Waseda ELF Research Project

<https://sites.google.com/site/welfrg/>

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名： 矢野安剛
ローマ字氏名： **YANO Yasukata**
所属研究機関名： 早稲田大学
部局名： 教育・総合科学学術院
職名： 名誉教授
研究者番号（8桁）：**00130857**

研究分担者氏名：飯野公一
ローマ字氏名：INO, Masakazu
所属研究機関名：早稲田大学
部局名：国際学術院
職名：教授
研究者番号（8桁）：50296399

研究分担者氏名：寺内 一
ローマ字氏名：**TERAUCHI, Hajime**
所属研究機関名：高千穂大学
部局名：商学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：**50307146**

研究分担者氏名：小中原麻友
ローマ字氏名：**Mayu Konakahara**
所属研究機関名：神田外語大学
部局名：英米語学科
職名：講師
研究者番号（8桁）：**80580703**

研究分担者氏名：野澤 佑佳子
ローマ字氏名：**Nozawa Yukako**
所属研究機関名：早稲田大学
部局名：社会科学総合学術院
職名：講師（任期付）
研究者番号（8桁）：**30737771**

研究分担者氏名：土屋慶子
ローマ字氏名：**Keiko Tsuchiya**
所属研究機関名：横浜市立大学
部局名：国際教養学部
職名：准教授
研究者番号（8桁）：**20631823**

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。